シャンティ　2014年6月1日発行　増刊　通巻275号
1985年6月28日第三種郵便物許可　ISSN1343-4748

2013-2014

2013年度年次報告／2014年度活動計画

公益社団法人
シャンティ国際ボランティア会

首都で行われた調印式にて、ミャンマー情報広報局長（左）と覚書を交換する若林会長

温かいお心を子どもたちへ届けます

公益社団法人シャンティ国際ボランティア会　会長　若林恭英

シャンティの活動に対し、ご指導、ご支援をいただいている皆さまに心より感謝申し上げます。お陰さまで、本年も年次報告と活動計画をお届けするはこびとなりました。

シャンティは活動を始めたときから、その国と地域の文化に根ざした教育支援を心がけてきました。文化は、先人の知恵が凝縮されたものであり、人が生きていく基盤となり、誇りでもあるからです。

文化を大切にする観点から、各国・地域では、人材育成にも取り組んでいます。それぞれの地域の文化に根ざした活動を長く継続していくように、現地の職員が自立する種まきをしています。そうした方向で2014年末には、シャンティのタイ現地法人シーカー・アジア財団の自立化を達成させる計画です。これと併せて新事業地として、民主化の進むミャンマー国内に拠点を開設し、夜間小学校へ通う子どもたちや、公共図書館への支援を行います。また、カンボジア、ラオスにおいても困難な状況に置かれている子どもたちのために、新たに地方事務所を開設し、支援事業を展開しています。

昨年度は、2011年から2013年までの3ヵ年事業計画の最終年度にあたり、その成果と課題を点検する節目の年でもありました。重点目標としてかかげた「①読書推進活動の拡充、②海外事務所の自立運営の促進、③若者世代へのアプローチ」。

若者世代へのアプローチは引き続き大きな課題としていく必要を感じています。現代の若者は内向きだという指摘もありますが、共感を呼び起こすことを通じて、「共に生き、共に学ぶ」支え合いの社会を共につくっていきたいと思います。また他の重点目標につきましても、より充実させるべく、2014年から2018年の5ヵ年計画に盛り込んで、一歩ずつ進んでいきます。

今年度も33年間シャンティが積み重ねてきた「共に生き、共に学ぶ」を基本姿勢に、皆様の温かいお心を子どもたちに届けたいと思っています。

シャンティが目指す姿

シャンティの使命（ミッション）

人間の尊厳と多様性を尊び、「共に生き、共に学ぶ」ことのできる平和（シャンティ）な社会を実現します。

シャンティが目指す姿（ヴィジョン）

人びとの考える力、創造する力を支え、共に社会や生活の問題を解決していくNGOとなります。

シャンティの基本姿勢（ヴァリュー）

1. 苦難の中にいる人びとと、痛み、悲しみ、喜びを分かちあい、共に歩みます。
2. 地域の伝統的な文化を重視し、民族、宗教、言語の違いを尊重します。
3. 人びとが自ら気づき、行動し、自立へと向かう開発を重視します。
4. 互いに支えあい、高めあうための触媒としての役割を果たします。

1980
シャンティの前身、曹洞宗東南アジア難民救済会議（JSRC）設立。カンボジア難民支援として図書館活動を開始。タイ事務所開設。

1981
JSRCのボランティアが曹洞宗ボランティア会を結成。

1984
初の開発事業がタイ・スリン県バーンサワイ村で始まる。

1985
タイのラオス難民キャンプで印刷活動開始。タイのチェンカーンとバンコクにあるスアンプルースラムで図書館活動開始。「クラフト・エイド」始まる。

1989
タイ・バンコクのクロントイスラムに職業訓練センター開設。

1991
カンボジア事務所開設。タイにシャンティの現地法人シーカー・アジア財団を設立。

1992
ラオス事務所開設。「曹洞宗国際ボランティア会」と改称。

1995
阪神・淡路大震災支援。

1999
「社団法人シャンティ国際ボランティア会」となる。「絵本を届ける運動」開始。

2000
ミャンマー（ビルマ）難民事業事務所開設。有馬実成元専務理事逝去。

2001
米国同時多発テロ後アフガニスタン難民支援活動実施。

2003
アフガニスタン事務所開設。有馬実成著「地球寂静」出版。

2005
愛・地球博「地球市民村」へ参加。「アジアの図書館サポーター」開始。

2011
宮城県気仙沼市、岩手県遠野市に事務所を構え東日本大震災被災者支援実施。シャンティ30周年。「図書館は、国境をこえる」出版。

2012
宮城県に山元事務所を構え、山元町と福島県南相馬市での東日本大震災被災者支援事業をスタート。

2013
ミャンマー情報省との覚書を締結

① 学校図書館に勤める図書館員
①～③ カンボジアの小学校敷地内に建設された学校図書館にて

2011-2013年度を振り返って

“中期目標2011-2013”の初年度は、日本中に大きな悲しみをもたらした東日本大震災への取り組みからはじまりました。緊急期の救援活動を経て、被災地の人びとと共に図書を通じた心安らぐ場づくり、新たなまちづくりに向けた仕組みづくりを進めました。人と人のつながりのもとで互いが支え合い、未来に向けた歩みが進められるよう、今後も活動を継続していきます。

海外では、より困難で機会を逸している人びと、子どもたちに目を向けていくために、アフガニスタン、カンボジア、ラオスにおいて活動の拠点を移設しました。また、新たな活動国となるミャンマーで事業形成を実施。大きく舵を切り直した3ヵ年となりました。

東日本大震災以降取り組みを中断していた緊急人道支援については、2013年度から体制を整え直し、活動を再開。同年11月までに国内外で発生した6つの風水害に対応した他、12月からはフィリピン中部を襲ったハイエン台風の被災者支援を開始しました。

この3年間に掲げてきた重点目標とその成果は次のとおりです。

読書推進活動の拡充に向けて

子どもたち255万9,918人（目標165万人）に対し、図書館、移動図書館、絵本出版等を通じた読書推進活動を提供することができました。

海外事務所の自立運営の促進へ向けて

タイ現地法人シーカー・アジア財団の「組織自立化5ヵ年計画」を推進し、2013年度には従来からのご支援者の引き継ぎ段階へと進むことができました。また、タイを除く全ての活動国においては、それぞれの事務所ごとに「運営現地化3ヵ年計画」を策定、ナショナルスタッフの育成と組織能力強化の取り組みを前進させました。

新たな対象国における事業展開を目指して

2013年2月にミャンマーにおける事業形成調査を実施。同年11月には内務省のNGO登録が完了し、連携先となるミャンマー情報省との間で覚書（MOU）を締結しました。

幅広い世代層の支援者との関係づくりに向けて

目標8,000人を上回る8,168人の方々に新たなご支援者として関わっていただくことができました。30代以下の若い世代も15.4%を占めました。

①環境整備のため校庭に植樹（カンボジア）
②「グローバルフェスタ」にブース出展、民族衣装で迎える職員

2014年度に向けて

2015年のASEAN経済共同体の創設に向け、カンボジアやラオスでは経済成長率が6〜8%台の成長を続けています。一方、広がる貧富の格差が民主化の流れを阻み、不安定な政治情勢にもつながっていると指摘されています。気候変動の悪化で災害も多発して、貧困にあえぐ人々はさらに困難な生活を余儀なくされる悪循環が続いています。

ミレニアム開発目標（MDGs）の期限の2015年を目前にして、目標達成に向けた努力とともに、ポスト2015開発枠組みを目指した議論が高まっています。掲げられるべき目標の柱に「普遍的な人権と人間の安全保障の実現」が改めて問われはじめていますが、これはシャンティの使命である「人類の尊厳と多様性が尊ばれ、〈共に生き、共に学ぶ〉ことのできる平和（シャンティ）な社会の実現」そのものといえます。

シャンティは、2014年より読書推進、図書館活動の取り組みを中心とした5ヵ年中期計画（〜2018年）をスタートさせます。中期達成目標には、

①より困難で弱い立場におかれる人々が、自ら考え、問題を解決する力を培っていけるよう、読書推進／図書館活動の取り組みを拡充する
②活動対象国／地域の政府や関係機関が、その教育政策の中に読書推進／図書活動の位置づけを与えていくよう、提言活動に力を注ぐ

の２つを柱として掲げ、初年度となる2014年度には、次の４点に重点をおいて取り組みます。

事業展開、運営の再編成

ミャンマーにて、公共図書館、学校外教育、児童図書出版などの事業を開始します。

カンボジア、ラオスにて、支援の届きにくい人びとに向けて活動するため、地方事務所を拠点にして事業展開します。

読書推進を目的とした活動が全ての事業に位置づけられるよう、方針と事業の再編成に着手します。

国内外の緊急時人道支援活動への積極展開を行うため、連携団体とのネットワークを強化します。

東日本大震災復興支援事業の中間評価を実施し、2015年末までの活動計画を策定します。

広報、財政の改善

アジアの図書館サポーター、絵本を届ける運動、本で寄付するプロジェクト、クラフト・エイド、アジア子ども募金の取り組みを中心に、シャンティを応援してくれる人を2,000人増やします。

組織運営、経営を強化

シーカー・アジア財団の現地自立化を2014年度末までに行います。

①海外事業、②東日本事業の在り方・方向性、③ファンドレイジングとマーケティングにかかわる基本戦略を理事による担当部会制で、検討、計画を作成します。

外部監査を3ヵ月ごとに実施、経理チェック体制の強化を進めます。

職員の人材育成

日本人・現地職員に求められる人材像を「人材育成基本方針」としてまとめ、「人材育成計画」を作成します。

ミャンマー

Myanmar

2013年は、ミャンマー国内で支援事業を開始するための調査と事務所開設にむけての準備を行った1年でした。11月にはミャンマー政府情報省との覚書（MOU）に調印、ミャンマー政府の承認のもと、シャンティとしては実に10年ぶりに新規支援国での事務所開設、教育・文化支援事業を実施するはこびとなりました。

2014年はヤンゴンと、ヤンゴンから北西300㎞に位置するバゴー管区ピー県に事務所を開設し、４つの支援事業がバゴー管区を中心に開始されます。

ミャンマーには仏教寺院が建設・運営している、「寺子屋」のような寺院学校が1,500校以上もあります。寺院学校は公立小学校と学習カリキュラムが同じで、しかも完全無償のために、貧困家庭の子どもたちが多く通っています。寺院とコミュニティの自助努力で運営されているため、校舎の老朽化や、教材・図書不足など、教育の質が問題となっています。シャンティは寺院学校の改善事業を行います。

また、小学校の就学率は88%にのぼっているのに、卒業できる子どもは56%に留まっています。貧困で学校に通えない子どもたちのために、生きていくために必要なことが学べる「ライフスキル教育プログラム」や、小学校卒業資格がとれる民営の「夜間小学校」、また、「コミュニティ学習センター」の支援を現地のNGOと協力して行います。また、ミャンマー国内には良質の子ども向け図書が非常に少なく、図書館員の質も低いため、公共図書館の改善と、絵本・児童図書の出版支援事業を行います。

公用語	ビルマ語
首都	ネーピードー
面積	678,500㎢
人口	6,367万人（2012年、IMF）
GDP	一人当たり834USドル（2012年、IMF）
通貨	チャット（K）
日本との時差	－2時間30分

❖2011年の文民政権成立後の急速な民主化に伴い、2013年からは外資の流入が続いています。2011年度に53社だった日系企業は2013年度には133社に急増。日本政府はODAを倍増させ910億円の供与と、延滞債務5000億円の帳消しを表明しました。一方で、成人識字率は公表数字より実態ははるかに低く55%とみられ、小学校を卒業できる子どもの数は全体の56%に留まっています。改革の影に置き去りにされる弱者が課題となっています。

2014

「寺子屋」寺院学校改善事業

- 寺院学校の校舎を２校建設。寺院学校に併設する孤児院を１棟建設。
- 14校の寺院学校に200冊の児童書を配布し、教員研修を実施。

学校に行けない子どもの支援事業

- 現地のNGOが行っているライフスキル教育プログラムの講師研修とプログラムの運営を支援。
- 夜間小学校の運営支援と教員研修を実施。
- コミュニティ学習センターへの教材、図書、備品の供与。講師の研修とプログラムの立案および実施。

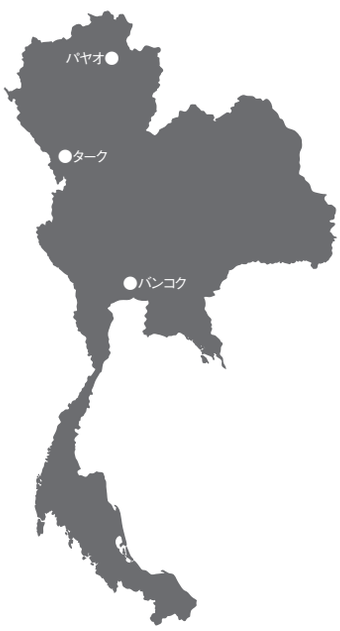
公共図書館改善事業

- 14の公共図書館にビルマ語の児童図書200冊と、児童スペース用の家具や備品を供与。図書館員の児童サービス研修を実施。
- バイクと車を使った移動図書館活動を実施。図書館にインターネットのためのパソコンを供与。

絵本・児童図書出版事業

- ミャンマー人の作家を育成するため、ミャンマー作家協会と協力し絵本コンクールを開催。６タイトルの絵本・児童図書を選出し、出版・配布。
- 絵本作家・児童図書作家の育成。

タイ
Thailand



公用語	タイ語
首都	バンコク
面積	514,000㎢
人口	6,678万人（2012年、世界銀行）
GDP	一人当たり5,480USドル（2012年、世界銀行）
通貨	バーツ（B）
日本との時差	－2時間

❖2013年11月1日に海外逃亡中のタクシン元首相を対象に含む恩赦法案が下院を通り、これに反対する勢力がバンコクで大規模なデモを展開。インラック首相が下院を解散、2月に総選挙が行われました。しかし、選挙のボイコットや反政府デモ隊による妨害で投票できない投票所が出たため、憲法裁判所が総選挙は無効という判決を下しました。混迷した状況は長期化することが予想されています。
都市部と地方の格差は依然として顕著であり、例えばミャンマー（ビルマ）と国境を接する地域においては、低学年まで小さな教室があるだけの分校で学び、それ以降は寮生活をしながら町の本校で学ぶというケースが少なくはありません。

タイでは2009年より無償教育制度が導入されていますが、運営資金が不足し、保護者から追加徴収をせざるを得ない状況です。通学に必要な制服や道具など準備しないといけないものがあり、山岳地域等の貧困層の家庭においては通学費用がかさんで生活を圧迫しているケースが多く見受けられます。

2014年は、少数民族が暮らしている地域で教育の機会改善事業（奨学金事業）に取り組みます。シーカー・アジア財団自立化計画においては、最終年（5年目）を迎え、日本のご支援者との関係づくり、タイ国内外における資金調達力の向上に力を注いでいきます。

2013

奨学金事業

パヤオ県、タク県の少数民族の子どもたち、バンコク・スラム地区の中高生375人および大学生24人、計399人に奨学金を支給しました。中高生の奨学生数内訳は、パヤオ県145人、タク県200人、バンコク30人です。

新規奨学生の2次選考審査には家庭訪問を実施。訪問軒数は、パヤオ県72軒、タク県99軒、バンコク都スラム地区19軒でした。

タク県では学校との連携を強化し、教員からも聞き取りを行いました。

5月に前期奨学金授与式、11月に後期奨学金授与式、12月に年度末評価会議で1年の反省と振り返りを行っています。

毎年10月には各地の奨学生代表60人が集い、ボランティア精神や実践を学ぶ奨学生キャンプを実施。ボランティア活動や文化交流会でそれぞれの伝統舞踊や歌、伝統楽器の披露することで、お互いの文化や生活の違いを知る機会にもなっています。

2014

奨学金事業

- パヤオ県モン族、タク県カレン族、バンコク・スラム地区の中高生375人および大学生25人、計400人へ奨学金を支給。学業に専念できるよう、中高生への支給額を増額。奨学金授与式は2回実施。その際に地域の文化を披露。
- 家庭訪問は年1回実施。
- 各地の奨学生の代表50人を対象とした交流キャンプを実施。

カンボジア

Cambodia

完成した学校図書館

公用語	クメール語
首都	プノンペン
面積	1,810,000㎢
人口	1,486万人（2012年、世界銀行）
GDP	一人当たり944USドル（2012年、世界銀行）
通貨	リエル（KHR）
日本との時差	－2時間

❖2013年7月に実施された第5回目の総選挙は野党が大幅に飛躍し、現政府に対する不満、抗議活動が活発化しました。この背景には、広がる経済格差、汚職、地方と都市部との発展の格差に対する若者の不満等があります。真の平和な社会構築を前に大きな過渡期を迎えた一年であったといえます。

カンボジアでは、小学校の就学率が97%を達成したものの、中学校への進学率は約5割にとどまっています。地方の農村部では、成人識字率が半分に満たないのが現状です。

2014年、バッタンバン州とシェムリアップ州の地方事務所を中心に、公教育分野において、より困難な地域への支援を視野に入れていきます。学校建設事業においては、初等教育の就学率が向上しており、また多くの援助団体が関わっているため、今後の事業展開方針を検討していきます。ノンフォーマル教育においては、新規参入分野であるため、一つひとつの活動を丁寧に実施し、着実に根づいていくよう心がけていきます。

新たな事業展開の実施にあたり、PCM（プロジェクト・サイクル・マネジメント）を意識して、事業の質の向上を目指します。リーダー職員の能力強化を図り、カンボジア人職員の事務所運営、管理能力を高めていきます。

2013

ドリーム小学校事業

バンテイミンチェイ州およびバッタンバン州の6校に校舎と図書館を建設し、運営についての研修や図書館員への専門的な研修を行いました。

また、過去の建設支援校に、校舎2棟と図書館1棟を追加建設しました。

住民参加による学校図書館運営事業

対象校を8校とし、教育省が発行した「小学校図書館スタンダード」に基づき、図書館運営に関する研修会を行い、図書館の装飾や備品や図書の提供、読書推進活動を行いました。研修には8校67人が参加し、図書館活動推進を目的としたイベントには4校1,927人が参加しました。州教育局職員も研修の講師を務めました。

①イベントを通して図書館活動を理解し、子どもたちに絵本を読んであげる母親
②学校図書館に配布された絵本。図書館員と子どもが一緒にタイトルを確認
③専門家による絵本出版研修会

2014

絵本・紙芝居出版事業

絵本6タイトル（新作4タイトル、再版2タイトル）計1万8,000冊、紙芝居1タイトル350部を出版し、学校や関係機関118ヵ所に配布しました。質の高い絵本づくりのため、専門家による研修、作家・画家・編集者間で評価シート草案作成を行ないました。

良好な協力関係による事業の円滑化および質向上を期し、他団体や関係機関のネットワークに参加しました。

図書館活動を中心としたコミュニティラーニングセンター事業

コンポントム州、シェムリアップ州において、コミュニティラーニングセンター（CLC）の建設が開始されました。図書室及び多目的室からなり、多目的室は郡教育局による識字教室や村の行事活動、団体の研修等に利用され、図書室には子どもから成人向けの本を配架します。住民への様々な情報発信のみならず、生涯学習の場として機能させていきます。

伝統文化事業

宗教省と連携し、仏教初等学校用教科書2タイトル各3,000部を出版し、僧侶年次会議の参加者1,000人と13州の宗教局に2冊ずつ配布しました。2014年1月末までに残り11州の宗教局にも配布され、各地の仏教初等学校への教科書配布が完了します。宗教省の要請により、「パーリ語・クメール語辞書」1,000冊を印刷、全国の仏教初等学校838校に配布しました。仏教研究所の現状調査を行い、報告書を作成しました。

ドリーム小学校事業

- バンテイミンチェイ州、バッタンバン州の6校で、5教室の学校校舎、貯水設備、4室のトイレ、学校図書館を建設。
- 図書および図書教材を、1年目、2年目に750冊ずつ配布。
- 図書館推進活動を年に1回開催し、地域住民の学校図書館への関心が高まるよう働きかける。
- 校長、教員、教育局職員、住民代表が学校運営に関する知識を得て、図書館員が図書館活動を行うことができ、地域住民が図書館の重要性への理解を深めることをめざす。

住民参加による学校図書館運営事業

- バンテイミンチェイ州、バッタンバン州の学校8校で、既存の図書館の室内調査を実施。図書館家具のサンプル作成、読書教材の配布、また、図書館内の装飾を行う。
- 「小学校図書館スタンダード」の普及のため、教員、図書館員、校長、郡教育局長と会合をもち、また、カリキュラム開発局に働きかけ、研修会を開く。
- 図書館員の技術向上のため、研修会を実施。
- 絵本選定・購入のためのガイドを作成、研修会を通じて配布。

絵本紙芝居出版事業

- 絵本4タイトル（新作3タイトルと再版1タイトル）と紙芝居1タイトルを出版し、主にバンテイミンチェイ州、コンポントム州、シェムリアップ州の学校図書館、図書スペースとプノンペンのスラムに配布。
- 絵本紙芝居作家・画家の技術・能力向上のため、教材・プログラム開発、研修会の開催、絵本・紙芝居の評価基準や年齢別の絵本・紙芝居の分類表を開発・活用。
- 児童文学向上のためのネットワーク強化のため、関連機関と連携会議を実施。

図書館活動を中心としたコミュニティラーニングセンター事業

- コンポントム州、シェムリアップ州において、図書館活動を中心としたコミュニティラーニングセンター（CLC）を設立し、運営マニュアルの作成や研修会等を開催して運営自立化を支援。
- 成人向けの読書教材の開発、対象地域でのCLCの推進活動、州・郡レベルにおけるCLCのネットワーク構築。

伝統文化事業～仏教学校における図書館推進事業

- 仏教研究所内に仏教図書館ワーキンググループを開設、トレーナー養成のための図書館研修を実施。
- 対象地域の仏教学校1校にモデル図書館を開設して読書教材・机・本棚などを供給、図書館員研修を実施。
- 宗教省仏教教育局内に仏教学校ワーキンググループを開設、自立運営のための計画・予算書作成研修を開催。

スラムのコミュニティ図書館事業

- プノンペンに、成人・子ども向けの本を配架したコミュニティ図書館を1館設立、自立運営化のための能力強化研修を開催。
- 識字教室修了者の支援活動（識字おさらい講座、生活向上のための基礎知識講座等）を実施。
- 対象地域スラム内外で移動図書館活動を実施。

ラオス
Laos

壁がない教室で授業をうける子どもたち

公用語	ラオス語
首都	ヴィエンチャン
面積	240,000㎢
人口	665万人（2012年、世界銀行）
GDP	一人当たり1,417USドル（2012年、世界銀行）
通貨	キープ（Kip）
日本との時差	－2時間

❖教育スポーツ省を中心に「万人のための教育」やミレニアム開発目標に沿って、教育の改善を目指して取り組み続けてきた結果、ヴィエンチャン首都など都市部のみの初等教育の改善は進み、就学率は94%にまで伸びました。しかしながら、多くの少数民族が暮らす地域や地方農村部においては、教室数、教員数、教員の質、指導教材の不足などの問題が多く残ったままとなっています。

新たな事業対象地域となるルアンパバーン県ヴィエンカム郡は、人口の85%以上は少数民族で構成されており、全国143郡の中で13番目に貧しい地域となっています。郡内の小学校は、全国平均値を上回る約3割が不完全校（1校で全学年を就学できない学校）で、また、複式学級（複数の学年が1つの教室で授業を受ける学級）の割合は、全国平均値の約3割を大きく上回る8割以上になっており、157学級のうち127学級が複式学級です。このような状況は、教員にとって授業運営に困難をもたらし、また、子どもたちにとっても学習への意欲を妨げる原因となっています。

2014年からの3ヵ年で、ヴィエンカム郡内の教員169人と児童6,995人を対象とした、初等教育の質とアクセスの両側面からの改善を目指した事業を実施します。事務所の管理・運営面については、事業地に近いルアンパバーン県に新たな地方事務所を設置し、ヴィエンチャン首都事務所に加えて、2事務所体制にします。現地職員による事業実施、事務所運営が可能になるよう、能力強化の研修を行います。

2013

図書館および読書推進事業

2010年から2013年までの3ヵ年事業で、全国9ヵ所の公共図書館を対象とした、公共図書館の自立発展性の促進を目指した活動を実施しました。

移動図書館活動では、ヴィエンチャン首都内の少数民族が多く住むマイパックグム郡で、教員が図書サービスの知識と技術を習得する研修会と、児童を対象に「お話し会」等の読書推進活動を実施しました。

ラオス事務所の周辺地域の子どもたちへの読書推進を目的に、事務所併設図書室を運営しました。

絵本出版は4タイトル1万2,000冊の絵本出版を完了し、公共図書館、子ども文化センター、読書推進活動の研修を受けた教員のいる小学校に配布しました。

上記の読書推進活動を通じて、16万498人への読書の機会を提供しました。（公共図書館：9ヵ所14万5,763人、小学校で移動図書館活動：16校1万3,578人、事務所に併設の図書室：1,157人）

学校教育支援事業

2012年度に建設が完了したボリカムサイ県1校、サラワン県1校を対象に、教育行政官と共に、学校運営の状況の調査を目的としたモニタリングを実施しました。

ルアンパバーン県ヴィエンカム郡で3校の小学校を建設しました。この事業を通じて、787人の児童が安全で学習に適した環境で学ぶことができています。学校建設を実施した全小学校に対して、学校運営研修会と、校舎を清潔に保つための学校清掃・トイレ研修会を実施しました。

2014

コミュニティ参加を通じた初等教育施設改善事業

- 小学校3校の建設。複式学級に対応した教室、障がい児、就学前児童の学習を考慮した設計を導入。すべての学校で衛生設備（トイレ、給水施設など）を設置。
- より良い学校運営、校舎の維持管理のため、教員と村の住民代表を対象にした学校運営研修実施。また、教員と村の代表に加え、児童を対象にした、手洗いの大切さ、トイレの使い方等の衛生教育を学ぶ研修を実施。
- 県・郡教育行政官とのモニタリングを実施。教育行政官の学校運営管理能力の向上と、教員と行政官の相互協力による学校運営の改善を目指す。

就学前・初等教育における指導能力改善事業

- 小学校67校の教員196人と県と郡の教育行政官を対象に、複式学級運営研修会を実施。また、持続可能性の確保するために、郡教育事務所職員を対象にトレーナー養成研修も実施。
- 小学校16校を対象に、教員への図書サービスの手法を習得する研修会と、児童を対象にした読書推進のための移動図書館活動を実施。
- ヴィエンカム郡内の少数民族の民話を題材にした絵本4タイトルを出版。

① 絵本を届ける運動の本を楽しむ子どもたち
②新規事業地のヴィエンカム郡は山深い
③ 老朽化して劣化した校舎が多い
④ 狭い教室で勉強する子どもたち
⑤ 読み聞かせの研修を受けた図書館員がいる公立図書館は子どもでにぎわっている

ミャンマー（ビルマ）難民
Myanmar(Burma)Refugees

青少年による図書館ボランティア（TYV）

◎主にカレン族が居住するキャンプ

メラウ	11,957人
メラマルアン	13,450人
メラ	43,255人
ウンピアム	13,154人
ヌポ	12,572人
バンドンヤン	3,251人
タムヒン	6,560人
合計	111,818人
2011年12月との人口の比較	−8,168人

（2013 年 12 月、TBBC：Thailand Burma Border Consortium）

❖1984年の流入以来、30年間に渡るタイ・ミャンマー（ビルマ）国境の難民問題、2010年のミャンマー民主化の流れを受けて、少数民族武装勢力とミャンマー政府との停戦・和平合意が少しずつ進行しています。しかし、自主的本国帰還の条件はいまだ整っておらず、難民キャンプで帰還準備をする期間はもうしばらく続きます。

ミャンマー（ビルマ）難民キャンプの学校教育の中で、読書推進活動や文化活動の普及を目指して、読書推進普及事業を2015年までの3ヵ年で実施中です。

2014年は、カレン難民委員会教育部会（KRCEE）と協力し、関係団体・個人に対して読書推進の知識や技術を高めていきます。また、カレン難民委員会、国連難民高等弁務官事務所、難民サービス調整委員会と協力し、難民の将来に関する情報提供者としての役割を果たします。

全9つの難民キャンプの総人口12万人に裨益することを目指します。カレン系住民の多い7つの難民キャンプにある150校4万人の生徒に対して読書環境を整えていきます。

管理・運営面については、現地職員主導の事務所および事業運営を確立すべく、研修を通して職員の知識、技術、経験の強化を行います。2014年1月から4月には現副所長が東京で、NGOマネジメント研修（約3ヵ月）に参加します。

2013

コミュニティ図書館事業

移行期を意識した活動運営

コミュニティ図書館の運営、実践など、6種類の研修を通して関係者の能力強化に努めました。研修会には述べ792人が参加しました。また、KRCEE及び各キャンプのキャンプ教育部会事務所の組織図の中にコミュニティ図書館が正式に位置づけられました。これにより、カレン教育部会との連携が一層強化されました。

情報や学習機会の提供

全キャンプの図書館担当者20人が合同研修会に出席し、役割や課題の共有を行いました。キャンプ教員トレーナー、教員向けの「読書推進活動」研修を実施し、教育関係者131人が図書館の役割、移動図書箱の利用方法や必要性を学びました。

難民の帰還に関する情報等を掲示する「コミュニティ情報ボード」を全21館のコミュニティ図書館の前に設置しました。図書館の新刊案内の他、活動紹介、将来的な動きを他団体と協力し掲示する予定です。また、図書館にはミャンマー（ビルマ）本国に関するニュースや一般教養書等を2万冊ほど届けました。

学校教育との連携活動

中学校、高校向けの参考図書の貸し出しを開始しました。特に、英語でのレポートが多いため、英語の参考書や辞書などの要望が多く聞かれました。また、ミャンマー（ビルマ）語の教科書、教員用ガイドブックが不足していることから、KRCEEと連携し、小学校3〜5年生用の印刷支援を行いました。

コミュニティ図書館としての機能維持

7ヵ所の難民キャンプ21館のコミュニティ図書館を運営しています。年間延べ利用者数は53万9,201人（内17歳以下：32万3,285人、18歳以上：21万5,916人）でした。カレン語・ビルマ語の絵本を3タイトル（合計6,000冊）出版し、全ての図書館に配架しました。連日、学校帰りの子どもたちで賑わう図書館で新しく出版された絵本が楽しまれています。

また、キャンプ内で暮らす各民族の子どもたちの交流と平和への祈りをこめて、4つの難民キャンプで難民子ども文化祭を開催しました。夜のステージでは、6〜12の民族の子どもたちが堂々と自分の民族の踊りや歌などを披露しました。

2014

- 21館のコミュニティ図書館を中心に難民の自主的本国帰還を想定した将来の選択に必要な情報を提供。本国に関する書籍の購入、他団体と連携しながらコミュニティ情報掲示板を更新。図書館のレイアウト見直し。
- 図書を利用した学習機会の提供。絵本の購入。参考図書を含む移動図書箱を学校教育機関に貸し出し。読書を奨励する人形劇と年中行事の実施。難民子ども文化祭の開催。カレン語教科書、教師用ガイドの印刷、配布。カレン語、ビルマ語の絵本3タイトル出版、配布。
- 図書館や学校関係者が必要な情報や学習機会を広げるスキルを身につけるための5種類の研修会の実施。研修の理解度を深めるためのモニタリングとフォローアッ

①コミュニティ情報掲示板を見る図書館利用者
②絵本も図書館も大好き
③図書館活動実践研修会
④保育所の教員が図書館員に
⑤難民子ども文化祭で交流ゲームを楽しむ

アフガニスタン
Afghanistan

ジャララバード市内の学校の図書室

公用語	パシュトゥー語、ダリ語
首都	カブール
面積	652,225km^2
人口	2,982万人 （2012年、世界銀行）
GDP	一人当たり687USドル （2012年、世界銀行）
通貨	アフガニー（AFN）
日本との時差	－4時間30分

❖学校数は年々増加しており1万5,000校を数え、純就学率も56%（女子は44%）まで改善しました。NGO関係の年間の治安事件は、前年の164件から228件に増加し、30人のNGO職員が亡くなりました。2014年4月の大統領選挙と、2014年末に完了予定の多国籍軍の撤退により、さらに治安が悪化することが懸念されています。

紛争下にあるアフガニスタンでは、就学年齢児童の4割が学校に通えず、成人識字率は36%（女性20%）にとどまります。図書室のある学校は全体の10%しかなく、教育省は60%の学校に図書室を設置する政策を掲げていますが、具体的な活動計画は持っていません。

2013年から2017年の5ヵ年の計画で、アフガンの子どもたちが読書の機会を得ることで教育の質を改善できるよう、学校図書室事業を実施しています。また、公共図書館とシャンティの運営する子ども図書館における読書活動普及を目指した児童の読書推進事業を実施しています。2014年度は3万4,000人の子どもたちに読書環境を届けることを目指します。

管理・運営面については、現地の治安状況を踏まえ、日本人職員は駐在せず、東京からの遠隔監理を継続します。同時に現地職員の安全確保に取り組みます。現地職員による事業実施、主体的な事務所運営が可能になるよう、研修を通して職員の能力強化を行います。

2013

学校建設を通した初等教育改善事業

カブール州において、16教室と8室（図書室、教員室等）からなる校舎とトイレを2校で建設しました。計画時には各20教室の建設を行う予定でしたが、大幅な円安のため各16教室の建設に変更しました。これにより、安全で快適な学習環境で学ぶ児童数が93クラス4,085人増加しました（2014年4月現在）。

2013年が現フェーズ最終年度のため、2013年4月に終了時評価を行い、この地域のニーズ及び政策に合っており、有効性が高いと評価しました。

学校図書室事業

18校に図書室を設置し、630人の教員に第1回図書活動研修を行い、72人の図書室担当教員、校長を対象に第1回図書館員研修を実施しました。4校140人の図書館担当教員、校長らに対して第2回図書館員研修を実施しました。

絵本6タイトル（各2,400冊）、紙芝居2タイトル（各200部）を公用語であるパシュトゥー語とダリ語で出版しました。出版にあたっては、図書出版ガイドラインや日本の専門家からのコメントに沿ってダミーの作成・改善を行いました。

品切れだった人気の絵本13タイトル、紙芝居2タイトルを再版しました。

児童の読書推進事業

ナンガハル州の公共図書館5館を対象にモニタリングを行いました。蔵書数、児童図書貸出数共に前年より増えました。国立図書館の児童室の改善を支援し、備品、図書の供与、図書館員の研修を実施しました。今後も追加図書の供与が必要な状況です。

ナンガハル州で「子ども図書館」を運営し、図書・文化活動を行い、年間でのべ5万1,374人の子どもが利用しました（50%は女子）。不就学児童のための特別教室は5月に終了し、参加児童50人は小学校に編入しました。

2014

学校建設を通した初等教育改善事業

- カブール市において、20教室と8室（事務室、教員室等）からなる校舎とトイレを1校に建設。机・椅子などの備品を供与。図書室を設置し、720冊の本を供与。教員に校舎、トイレの維持管理のための研修を実施。

学校図書室事業

- ナンガハル州とカブール州の26校を対象に教員研修、図書室整備、移動図書館、モニタリングを実施。対象校の教員に図書館活動についての知識と技能を習得させることにより、児童の本へのアクセスを改善。
- 図書館活動の定着のため、州教育局へ図書活動を推進する能力と政策を改善するよう働きかけ。
- 民話・創作に基づく児童図書6タイトルを出版、配布。児童図書5タイトルの再版。

児童の読書推進事業

- 公共図書館支援では、ナンガハル州の公共図書館5館とカブール市の国立図書館への研修とモニタリングを継続。
- ナンガハル州ジャララバード市で「子ども図書館」を運営し、児童に図書・文化活動の機会を提供。

①完成した校舎
②高等学校小学部でモニタリングと絵本の読み聞かせ
③新しい校舎の前で文具を受け取り喜ぶ子どもたち
④校舎が建設される前は民家の屋上で勉強していた
⑤国立図書館の子どもの部屋に図書や備品を供与

緊急救援
Emergency Relief

子ども支援の体験プログラム「あつまれ、浜わらす!」（宮城県気仙沼市）

2013年5月より「緊急救援室」として、東日本大震災の被災者支援活動を支え、また気候変動の影響もあり、ますます増えるであろう国内外での緊急救援事業の実施に備えるべく体制を整えました。

被災者とご支援者・関係者をつなぐ役割において、何事にも誠意をもって責任ある対応を行い、ご支援者との間や現場とそれを支える東京事務所間で密なコミュニケーションをはかり、現場の声を確実に届けていきたいと思います。

2013

ミャンマー南東部水害、フィリピン台風被災者支援事業

2013年7月下旬より数週間続いた大雨は、ミャンマー南東部のカレン州・モン州を中心に大きな被害をもたらしました。発生から2ヵ月以上経過していたにもかかわらず、アクセスが困難で支援から取り残されたカレン州南部の被災者に対して、衛生環境の改善のため895世帯に対して安全な飲料水の確保を目的とした砂ろ過器を、260世帯に対してトイレ設備資材を配布しました。また、被災した子どもたち800人に制服・通学かばん・文房具セットを配布し、学校再開後も通学できなかった子どもたちに学習支援を行いました。

2013年11月8日にフィリピン中部を襲った超大型台風ハイエンは暴風雨に加え高潮の影響もあり、逃げ切れずに命を落とした方、家や財産を全て失った方など、多大な被害をもたらしました。11月中旬よりサマール島東サマール州で初動調査を実施し、エルナーニ町2村460世帯に対して食糧・蚊帳・鍋・下着等の生活支援キットを配布しました。また、人的被害が少ないため支援から取り残された町の一つ、キナポンダン町の16村2,152世帯を対象にトタン板・合板・釘・工具などの家屋再建セットを配布する事業を2013年末から2014年2月まで実施しました。台風シーズンが続く中、国際支援団体から支給されたテントの中で身を寄せ合って暮らしている被災者の方々にとって、屋根や壁で雨風をしのぎ安心できる環境づくりのお手伝いをすることができました。3月以降は、同町においてデイケアセンター（就学前教育施設）の再建を実施します。

相次ぐ国内水害・洪水・台風被害への対応

7月山形水害、8月山口水害、9月京都水害、11月伊豆大島台風災害と夏以降全国各地に発生した水害や洪水、台風被害において支援を行いました。現地の災害ボランティアセンターに東京事務所および気仙沼事務所の職員を派遣し、外部支援の調整やセンター職員のサポート、被災者を励ますイベントなど実施協力をしました。

つながる人の和
復興プロジェクト気仙沼

まちづくり支援として、登米沢地区と前浜地区の防災集団移転では専門家の方を招いての勉強会を、大谷、小泉、階上地区では「復興まちづくり計画」を住民が作り、実現への足掛かりにするためのワークショップや意見交換の機会を設けました。また子ども支援では、海と向き合うことを目的とした体験プログラム「あつまれ、浜わらす！」を夏と冬に計8回開催し、のべ70人が参加しました。ほか生業支援として、蔵内地区の養殖漁業の復旧のためのボランティア派遣や、商品化した「こいわかめ」の販路開拓も引き続き行いました。

走れ東北!
移動図書館プロジェクト

岩手事務所

移動図書館活動では山田町、大槌町、大船渡市、陸前高田市にある25の仮設団地を訪問しています。図書室の運営、文庫活動も含め、1万1,324人の方にご利用いただき、6万844冊の図書を貸し出しました(2013年12月末時点)。それぞれの活動において心なごむ場をつくりつつ、図書館への期待や生活への不安など利用者のさまざまな声を継続して拾うことに努めました。また、陸前高田市立図書館および市内の私設図書室が連携する中心的役割を担い、図書関連のイベントを行政や地元組織と協働して実施することで地域との結びつきがより強まり、地元の方たちからも共感を得られる機会になりました。

山元事務所

宮城県の山元町では、鹿島区の仮設団地8ヵ所を移動図書館車で定期的に訪問しています。約2,500人の方にご利用いただき、6,000冊以上の図書を貸し出しました。福島県南相馬市では、運行先を2012年の5カ所から8カ所に増やし、約1,700人の利用、3,000冊の図書を貸し出しがありました。

2014

つながる人の和
復興プロジェクト気仙沼

- 住民が参加しやすいまちづくりのためのワークショップや研修、視察などを実施。
- 子どもたちが海辺で再び安心して遊べるためのきっかけ作りを企画。
- 漁村活性化のための視察や研修、専門家派遣を実施。

走れ東北!
移動図書館プロジェクト

岩手事務所

- 移動図書館活動、コミュニティー図書室の運営、文庫活動を実施。
- 公立図書館再建サポート。お話し会、読書感想文サポートなどの学習支援、イベントを実施。
- 陸前高田コミュニティー図書室を支える友の会の立ち上げ。

山元事務所

- 移動図書館活動の巡回場所の拡充。
- 子ども支援、まちづくり支援関連イベントへの協力。

①砂ろ過器の使い方を説明（ミャンマー水害被災地）
②物資を一つひとつ手渡し（フィリピン台風被災地）
③雪の中、移動図書館に来てくださった（宮城県山元町）
④お母さんたちと話がはずむ（福島県南相馬市）
⑤大勢のボランティアが集まった（伊豆大島）

日本
Japan

12月7日「SVAのつどい」にて、小布施町立図書館「まちとしょテラソ」
初代館長花井裕一郎さんの講演

難民キャンプを訪問したスタディツアーの参加者と子どもたち

2013年も皆さまの温かいご支援のもと、活動を続けることができ感謝申し上げます。

シャンティを既に知って下さっている方々の中から、継続して支えるサポーターとして多くの方々が賛同していただきました。また、1,773人の方々が新しく支援の輪に加わってくださいました。2014年は人とのつながりを大切にしながら、海外の活動・国内の活動を含めて、現状や課題をみなさまにお伝えしていきたいと思います。

アジアの図書館サポーター

広がる、サポーターの輪

338人の方がサポーター支援をスタートしてくださり、2013年末で、サポーター数は979人となりました。サポーターの輪が広がっています。スタディツアー、「走れ東北！移動図書館プロジェクト」ボランティアにご参加いただいた方もいました。

春には、子どもたちからの写真付メッセージカードをお届けしました。これからも、サポーターの皆さまと、アジアの子どもたちの思いをつないでまいります。

絵本が届きました!（カンボジア）

絵本を届ける運動

1万5,000冊の絵本を子どもたちに

15年目を迎える2013年度は、1万5,635冊の絵本を活動地に届けることができました。個人・団体合わせて1,251件と、多くの皆様にご参加いただき、（公財）ベルマーク教育助成財団からの助成、日本郵船株式会社による輸送支援も継続していただきました。2014年度は1万5,000冊を目標に、ご協力を呼びかけていきます。

ひと針ずつ刺繍する生産者の女性

クラフト・エイド

現地生産者調査を行いました

2013年度は、タイ、カンボジア、ラオス、アフガニスタン各国で、生産者パートナー16団体の書面調査を実施しました。ラオスとタイでは現地を訪問し、生産者に直接インタビュー調査も行いました。

生産者、販売支援者の方々の声に耳を傾け、商品開発に尽力していきます。

企業での取り組みの様子

リサイクル・ブック・エイド

不要になった本などで
アジアの子どもたちを支援

2013年は、封筒型チラシを作成し、1点から本等のご寄贈を募るという新しい試みを行い、多くの方にご協力いただきました。2013年全体では、1,057件（新規288件）のお申し込みをいただき、計14万6,000点の本、CD、DVD等のご寄贈をいただきました。

2014年、本事業は「本で寄付するプロジェクト」と名称の変更をします。

現地職員が来日はた際開いた報告会

広報

支援者と直接お話できる機会を持つ

2013年は海外事務所のスタッフの報告会を19回開催し、475人の方にご参加いただきました。また東日本大震災被災者支援事業の報告会も3回実施しました。新宿区の北新宿図書館や四谷図書館、愛知県田原市中央図書館、三重県立図書館、島根県立図書館での展示や講演を行いました。そのご案内を地元の会員やアジアの図書館サポーターの方にお伝えし、地方で直接お話ができる機会を持つようにしました。

ラオスでの新規事業形成調査のための学校訪問

海外事業支援

海外事業を支えるために

たくさんの方々からのご支援を受け、海外事業の指定募金をほぼ目標通りに達成することができました。ラオスでの新規事業形成、アフガニスタンでの事業終了時評価や運営現地化行動計画（1年目）等へのサポートを行いました。また経理研修とミャンマー国内での事業形成調査を実施しました。
2014年は引続き、資金調達への取組み、人材育成や事業運営面サポートを行っていきます。

2013年度正味財産増減計算書

2013年1月1日～2013年12月31日

〈一般正味財産の部〉

◎経常増減の部

（単位：円）

(1) 経常収益	
① 基本財産運用益	191,773
② 特定資産運用益	87,284
③ 受取会費	27,033,000
④ 受取寄付金	423,869,622
⑤ 受取補助金等	214,921,703
⑥ 事業収益	51,956,687
⑦ 雑収益	6,146,661
経常収益合計（A）	**724,206,730**
(2) 経常費用	
①事業費	
公益目的事業 1 途上国における開発協力事業	
タイ事業費	16,929,138
カンボジア事業費	138,349,392
ラオス事業費	41,496,223
ミャンマー難民事業費	52,320,969
アフガニスタン事業費	142,225,834
ミャンマー事業費	3,019,717
海外事業支援費	29,492,191
アジアの図書館サポーター事業費	8,497,478
公益目的事業 1 合計	**432,330,942**
公益目的事業 2 国内・国外における緊急救援事業	
東日本大震災支援事業費	127,488,942
緊急支援費(海外)	14,028,648
緊急救援事業支援共通費	3,746,295
公益目的事業 2 合計	**145,263,885**
公益目的事業 3 開発協力事業に関する普及啓発事業	
絵本を届ける運動事業費	30,950,939
広報事業費	36,489,337
公益目的事業 3 合計	**67,440,276**
公益目的事業共通事業費	14,627,084
公益目的事業合計	**659,662,187**
収益事業等	
クラフト・エイド事業費	31,672,769
業務委託費（コンサル）	44,987
リサイクル・ブック・エイド事業費	9,081,595
収益事業等合計	**40,799,351**
②管理費	35,076,892
経常費用合計（B）	**735,538,430**
評価損益等調整前当期経常増減額	▲ 11,331,700
評価損益等計（C）	**0**
当期経常増減額（A）－（B）－（C）	**▲ 11,331,700**

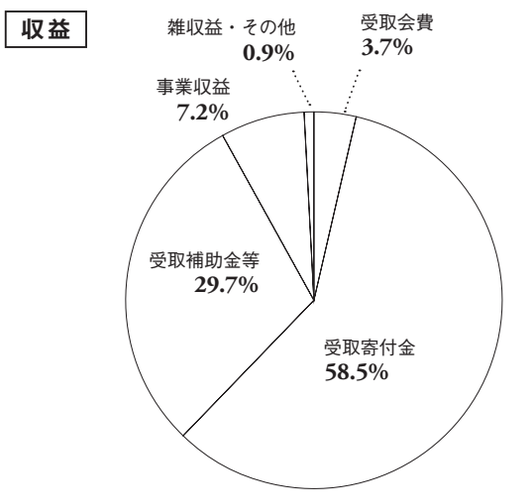
◎経常外増減の部

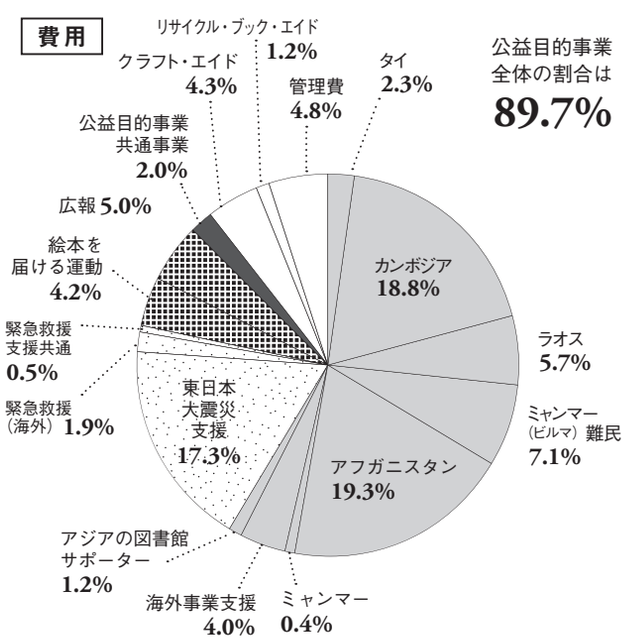
(1) 経常外収益	
経常外収益計	11,615,788
(2) 経常外費用	
経常外費用計	49,972,363
当期経常外増減額	▲ 38,356,575
税引前当期一般正味財産増減額	▲ 49,688,275
法人税、住民税及び事業税	70,000
当期一般正味財産増減額（D）	▲ 49,758,275
一般正味財産期首残高（E）	195,859,622
一般正味財産期末残高（F）＝（D）＋（E）	**146,101,347**

◎指定正味財産増減の部

（単位：円）

① 基本財産運用益	191,773
② 受取補助金	224,882,994
③ 受取寄付金	102,230,238
④ 固定資産受贈益	10,000,000
⑤ 一般正味財産への振替額	▲ 429,486,325
当期指定正味財産増減額	▲ 92,181,320
指定正味財産期首残高	686,959,395
指定正味財産期末残高	**594,778,075**





公益目的事業全体の割合は **89.7%**

公益目的事業1：**58.8%**
公益目的事業共通事業：**2%**
公益目的事業2：**19.7%**
収益事業等：**5.5%**
公益目的事業3：**9.2%**
管理費：**4.8%**

貸借対照表

2013年12月31日現在

◎資産の部

（単位：円）

(1) 流動資産		
現金預金		96,817,859
棚卸資産		
	手工芸品	7,008,462
	その他貯蔵品	425,660
売掛金		2,932,618
未収金		11,084,546
前払金		33,728,018
立替金		334,011
短期貸付金		869,326
前払費用		573,000
仮払金		4,957,885
流動資産合計（A）		**158,731,385**
(2) 固定資産		
①基本財産		
	投資有価証券（国債）	50,000,000
基本財産合計		**50,000,000**
②特定資産		
	民間補助金預金	182,856,964
	寄付金預金	385,440,994
	車両運搬具（東日本関係）	29,266,068
特定資産合計		**597,564,026**
③その他固定資産		
	車両運搬具	12,554,641
	備品	246,164
	電話加入権	70,157
	差入保証金	2,644,359
その他固定資産合計		**15,515,321**
固定資産合計（B）		**663,079,347**
資産合計（A）＋（B）		**821,810,732**

◎負債の部

(1) 流動負債	
未払金	10,981,113
前受金	35,032,379
預り金	7,368,594
預り税金保険料	4,339,904
未払消費税	395,441
未払法人税等	70,000
流動負債合計（C）	**58,187,431**
(2) 固定負債	
退職給付引当金	15,219,879
役員退職慰労引当金	324,000
焼野教育支援預り金	7,200,000
固定負債合計（D）	22,743,879
負債合計（E）＝（C）＋（D）	**80,931,310**

◎正味財産の部

(1) 指定正味財産	
基本金	50,000,000
民間補助金	182,856,964
寄付金	356,370,896
受贈固定資産（車両運搬具・東日本関係分）	5,550,215
指定正味財産合計	**594,778,075**
（うち基本財産への充当額）	(50,000,000)
（うち特定資産への充当額）	(544,778,075)
(2) 一般正味財産	**146,101,347**
（うち基本財産への充当額）	0
（うち特定資産への充当額）	(45,585,951)
正味財産合計（F）	**740,879,422**
負債及び正味財産合計（E）＋（F）	**821,810,732**

2014年度収支予算書

2014年1月1日～2014年12月31日

一般正味財産増減の部

◎経常増減の部

（単位：円）

(1) 経常収益		
① 基本財産運用益		50,000
② 特定資産運用益		90,000
③ 受取会費		28,000,000
④ 受取寄付金		474,097,599
⑤ 受取補助金等		157,724,266
⑥ 事業収益		135,241,245
⑦ 雑収益		1,251,704
経常収益計		**796,454,814**
(2) 経常費用		
① 事業費		
	タイ事業費	15,519,200
	カンボジア事業費	125,939,990
	ラオス事業費	40,772,787
	ミャンマー難民事業費	46,340,650
	アフガニスタン事業費	137,976,496
	ミャンマー（本国）事業費	41,630,000
	現地職員退職給付費用	1,071,000
	緊急救援事業費	31,458,000
	絵本届ける運動絵本購入費用	12,124,000
	クラフト・エイド売上原価	14,400,000
	ＲＢＡ販売原価	5,850,000
	人件費	205,435,800
	東京事務所事業間接費	98,804,770
② 管理費		30,604,230
経常費用計		**807,926,923**
当期経常増減額		**▲ 11,472,109**

◎経常外増減の部

(1) 経常外収益	0
(2) 経常外費用	
法人税	70,000
経常外費用計	70,000
当期経常外増減額	**▲ 70,000**
当期一般正味財産増減額	▲ 11,542,109
一般正味財産期首残高	190,717,636
一般正味財産期末残高	**179,175,527**

◎指定正味財産増減の部

受取補助金等	0
受取寄附金	39,278,000
一般正味財産への振替額	198,598,390
当期指定正味財産増減額	▲ 159,320,390
指定正味財産期首残高	588,917,685
指定正味財産期末残高	429,597,295
正味財産期末残高	**608,772,822**

公益社団法人シャンティ国際ボランティア会は、
当会監事による監査及び田中義幸公認会計士事務所による
財務諸表の外部監査を受けております。

組織ネットワーク
Organization &Network

◎会員

会員合計	1,932人
社員会員	313人
個人会員	259人
団体会員	54人
賛助会員	1,619人
個人会員	1,431人
団体会員	188人

（2013年12月31日現在）

◎国内における主な受賞歴

正力松太郎賞（1984年）
ソロプチミスト日本財団賞（1985年）
外務大臣賞（1988年）
毎日国際交流賞（1994年）
東京都豊島区感謝状（1995年）
防災担当大臣賞（2004年）
兵庫県知事感謝状（2005年）
第七回井植記念「アジア太平洋文化賞」（2008年）
宮城県社会福祉協議会感謝状（2011年）

（2014年4月1日現在）

◎名誉会長

松永 然道　静岡県・宗徳院東堂

◎顧問

足立 房夫　社団法人協力隊を育てる会会長
公益社団法人東京都障害者スポーツ協会副会長
阿部 豊淳　宮城県・光寿院住職
荒巻 裕　前近畿大学副学長・総合社会学部長
小野田 全宏　特定非営利活動法人
静岡県ボランティア協会常務理事
川原 英照　熊本県・蓮華院誕生寺貫主
特定非営利活動法人れんげ国際ボランティア会会長
白石 孝　荒川区職員労働組合顧問
松野 宗純　福井県・地蔵院東堂
横浜ルネッサンスPHP友の会相談役

◎SVA専門アドバイザー

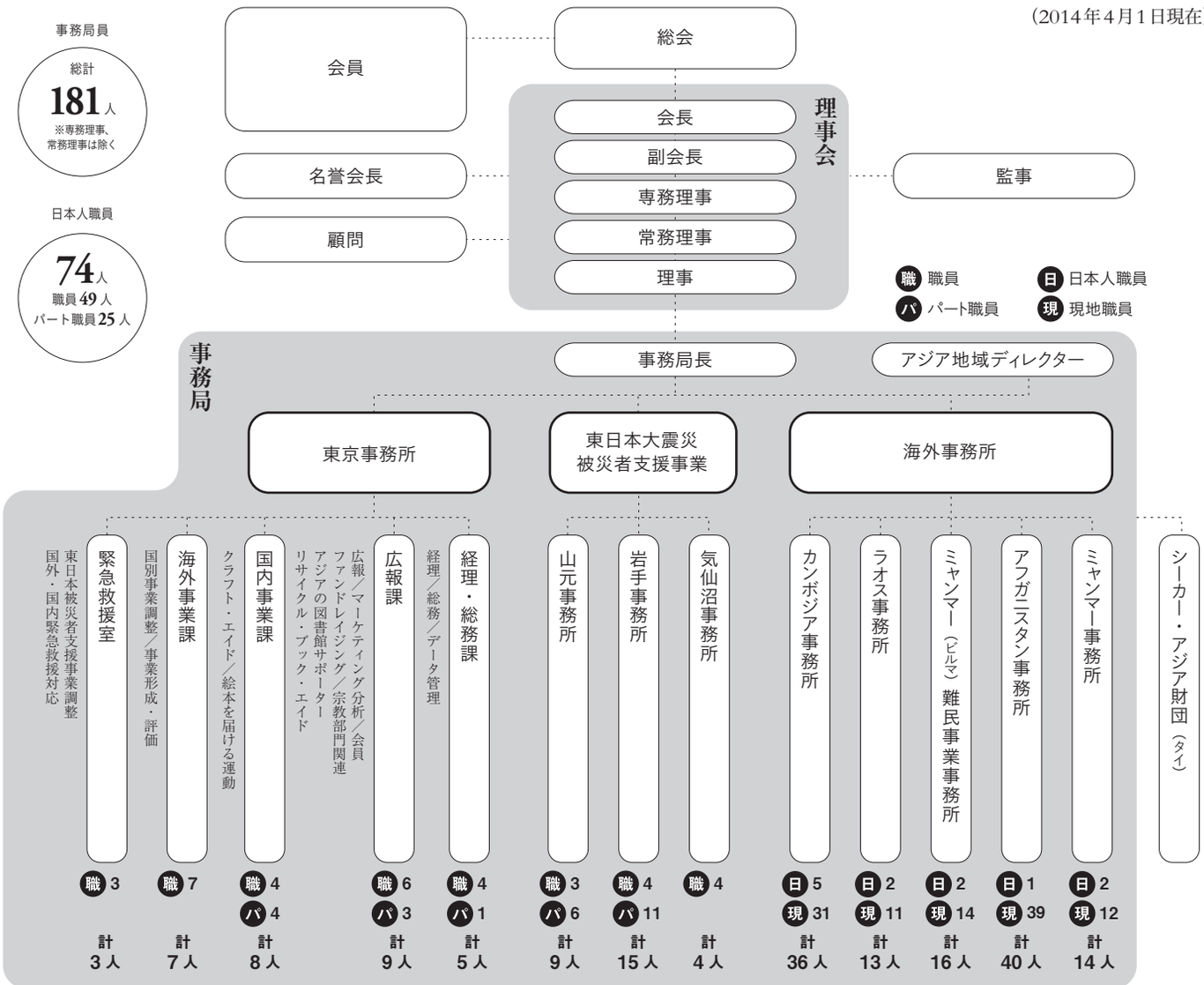
佐藤 凉子　子どもと読書のコーディネーター＆ストーリーテラー
田尻 佳史　認定特定非営利活動法人日本NPOセンター
常務理事・事務局長
田中 弥生　日本NPO学会会長
大菅俊幸　曹洞宗総合研究センター講師

◎役員

会長	若林 恭英	長野県・安楽寺住職
副会長	神津 佳予子	有限会社ケイアンドアイ代表取締役社長
副会長	三部 義道	山形県・松林寺住職
専務理事	茅野 俊幸	長野県・瑞松寺住職
常務理事	市川 斉	シャンティ国際ボランティア会常勤役員
常務理事	秦 辰也	近畿大学総合社会学部総合社会学科社会・マスメディア系専攻教授
常務理事	早坂 文明	宮城県・徳本寺住職
理事	有馬 嗣朗	山口県・原江寺住職
理事	磯辺 康子	神戸新聞社会部デスク兼編集委員
理事	岡本 真	アカデミック・リソース・ガイド株式会社代表取締役／プロデューサー
理事	倉科 利行	長野県・全久院住職
理事	神 仁	財団法人全国青少年教化協議会主幹
理事	関 尚士	シャンティ国際ボランティア会事務局長
理事	長浜 洋二	NPOマーケティング研究所代表
理事	永堀 宏美	早稲田大学大学院教職研究科非常勤講師
理事	野村 修一	弁護士
理事	笛岡 賢司	静岡県・龍谷寺住職
理事	八木沢 克昌	シャンティ国際ボランティア会アジア地域ディレクター
理事	渡辺 恵司	NPO法人こうとう親子センター代表理事
理事	渡邊 智恵子	株式会社アバンティ代表取締役
監事	青木 利元	ボランティア活動国際研究会代表
監事	増田 和生	元自治労大阪府本部特執

（2014年4月1日現在）

（2014年4月1日現在）



参加ネットワーク一覧

◎国内

動く→動かす【フレンズ会員】／「エクセレントNPO」をめざそう市民会議【監事】／NGOと企業の連携推進ネットワーク【会員】／NGO–労働組合国際協働フォーラム【団体会員】／開発教育協会（DEAR）【団体会員】／紙芝居文化推進協議会【会員】／カンボジア市民フォーラム【団体会員・世話人】／教育協力NGOネットワーク（JNNE）【事務局長】／国際協力NGOセンター（JANIC）【正会員】／災害ボランティア・市民活動支援に関する検証プロジェクト会議（支援P）【検討委員】／シーズ・市民活動を支える制度をつくる会【賛助会員】／ジャパン・プラットフォーム（JPF）【会員】／地雷廃絶日本キャンペーン（JCBL）【団体会員】／震災がつなぐ全国ネットワーク（震つな）【会員】／東海地震等に備えた災害ボランティアネットワーク委員会【委員】／東京災害ボランティアネットワーク（東災ボ）【副代表、運営委員】／日本アフガニスタンNGOネットワーク（JANN）【団体会員】／日本NPOセンター【会員】／日本図書館協会【会員】／日本ファンドレイジング協会【団体会員】／日本UNHCR－NGOs評議会（J-FUN）【団体会員】／東日本大震災支援全国ネットワーク（JCN）【団体会員】／ビルマ市民フォーラム【団体会員】／仏教ＮＧＯネットワーク（BNN）【副代表、運営委員】／防災世界会議日本CSOネットワーク【参加団体】／東京都災害ボランティアセンター（仮称）検討委員会【委員】／国際災害ボランティア支援ネットワーク【常任委員】

◎海外

●タイ　Bangkok World Book Capital 2013【参加】／Committee of Children【会員】／The Astrid Lindgren Memorial Award 2014【参加】

●カンボジア　Cooperation Committee for Cambodia (CCC)【会員】／Japanese NGO Worker's Network in Cambodia (JNNC)【会員】／NGO Education Partnership (NEP)【会員】／カンボジア日本人会(JACAM)【会長】／カンボジア市民フォーラム【現地世話人】

●ラオス　International NGO Network【会員】／Japanese NGO Meeting (JANM)【参加】

●ミャンマー（ビルマ）難民キャンプ　Committee for Co-ordination of Services to Displaced Persons in Thailand (CCSDPT)（難民支援事業調整委員会）【会員】

●アフガニスタン　Agency Coordinating Body For Afghan Relief (ACBAR)【会員】

●全体　Asia South Pacific Association for Basic and Adult Education (ASPBAE)【理事】／The Asia Disaster Reduction & Response Network（ADRRN）【Asscciate Member】

（2014年4月1日現在）